

令和7年度 綾瀬市立天台学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<p style="text-align: center;">いきいきとした子どもを育む</p> <p>・健康な子 ・よく考えて進んで取り組む子 ・助け合う子</p>	
<p style="text-align: center;">学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	 <p style="text-align: center;">「〇〇やってみよう」 と思わせるような授業構成を考える</p>	
今年度の重点目標		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	<p>学校は、「よく考え、進んで取り組む子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>学習意欲については、児童の自己評価は肯定的な評価が高い傾向にあり、意欲をもって学習に取り組んでいるといえます。これは、校内研究を中心とした授業改善の成果といえます。一方で、保護者の評価では、児童との評価に差が見られます。この要因の一つとして、学校での意欲的な姿が保護者に目に見える形で届いていないということが考えられます。学校での姿を伝える工夫をしたり、児童たちが学校で取り組んだことを家庭でも続けてやりたいと思えるような授業・課題づくりをし、学校での意欲が家庭にも波及するように工夫をしていきます。</p>
2 教育課程	<p>児童は、運動会等の学校行事や委員会、学級の係活動に積極的に参加している。</p>	<p>学校行事に意欲的に取り組んでいる様子が分かります。児童が自分の役割や責任を自覚し、めあてをもって主体的に取り組むことができるよう、達成感が味わえる学校行事を工夫していきます。その際、活動のねらいを共有し、児童一人ひとりの思いや考えを大切にしながら、個に応じた支援を行っていきます。また、毎日の学校生活においても、児童が自ら考え行動し、仲間と協力しながら物事に取り組む力を育て、主体性や責任感を高めるとともに、次の活動への意欲につなげられるような指導を継続していきます。</p>
3 児童・生徒指導	<p>学校は、「助け合う子」を育てる指導を積極的に行っている。</p>	<p>概ね肯定的な評価になっています。児童に思いやりの心を育てることを意識して異学年交流や道徳授業を継続的に行っていることで、相手の気持ちを思いやることのできる児童が育っていると考えられます。また、児童会活動での取り組みは児童が主体となっているため、より自然な形で全校児童に思いやりが広まっているのではないかと考えています。本校の職員と児童とで育ててきた思いやりの心が今後も続いていくよう、全教育活動を通して指導していきます。</p>
4 児童・生徒指導	<p>児童は、友人や先生との学校生活に満足している。</p>	<p>児童の9割弱が概ね満足していると回答している一方で、約1割の児童が悩みや不安を抱えているという現実があります。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係を注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。そして全ての児童にとって心から「楽しい」と思えるような学校を目指していきます。</p>

5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者からは「わからない」という回答が3割近くあります。また、取り組みが不十分と感じている保護者の割合も1割以上です。本校では年度初めの職員会議で、「いじめ防止基本方針」を職員全員で確認し、いじめは絶対に許さないという学校としての強い姿勢を共有しています。今後もスクールアンケートの実施やいじめ防止対策委員会の設置について、改めて周知していきます。児童や保護者の不安や悩みに対して常に応じられるよう、担任だけでなく教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー等の存在を周知し、引き続き教育相談に応じる呼びかけを行っていくと同時に児童理解を深め、一人ひとりを大切に学校・学級づくりを目指していきます。
6 保健管理	学校は、「健康な子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	概ね健康な生活を送っていると捉えています。生活リズム大作戦や健康観察の結果からは、毎日、朝食を食べている児童が多いという結果が得られています。今後も継続的に保健だより等を中心に「早寝、朝日、朝ごはん」の習慣がしっかりと身につくように指導するとともに、児童が自らの健康に関心をもち、めあてをもって運動する意欲を持てるような取組を計画・実践していきます。保護者から登下校の様子を心配する声がかかれたり、ゲームのやり過ぎ等で授業に集中できない様子も見られたりするので、児童の健康・安全を守るために、お便りや懇談会、面談等で家庭とさらに連携していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員の多くが児童の安全を守るための取組を行っているという回答しています。安全についての指導の後は児童の変容を見取ったり課題を見出したりしながら、児童の安全を最優先に考えていきます。交通安全教室や避難訓練ばかりではなく、道徳や学級活動の時間などにおいて学校生活のあらゆる場面をとらえて安全に過ごすための行動や命の大切さを学ぶ機会を増やしていきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	多くの教職員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践しています。支援教育についての理解は深まってきていると考えています。しかし一方で配慮が行届かなかったのではないかと感じている部分があることは課題です。個のニーズに対し、今後も教職員同士で情報交換を密にし、連携を図って、組織的により多くの目で見守っていきます。また、スクールカウンセラーの役割が周知されるに従って、保護者や児童のニーズも増えています。引き続きスクールカウンセラーや外部機関と連携しながら、個に応じた支援体制の充実を考えていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校運営について総括教諭をリーダーとした各グループで計画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践され、ふり返りをもとに新たな課題を見出し、改善に向けて新たな計画を立てるといったサイクルを徹底し、よりよい学校となるように今後も全教職員で取り組んでいきます。各グループの連携を図りながら、今後も地域や家庭に信頼される学校づくりをめざして運営を行っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	児童が主体的・能動的に発見したことや考えたことを伝え合って取り組めるような学習の場を目指します。そのために、今一度、目指すべき児童像を職員全体で共通理解し、校内研究に取り組んでいきます。また、引き続きICT機器を使った授業の研修や各々が得意とすることを互いに共有しあうようなミニ研修の機会を設け、指導力の向上に努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	概ね肯定的な評価になっています。これからもより一層児童の実態や課題を把握し、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導・支援にあたっていきます。そのために、学校運営や教育活動に関わってくださる家庭や地域の方々との連携を密にするとともに、学校運営協議会を通していろいろな情報交換を行いながら、よりよい教育活動に努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	学校の取組に対して保護者の肯定的な評価が多く見られました。学校と家庭・地域が連携してこそ、教育の効果は高まると考えています。今後も、保護者や地域との連携を一層図り、学校・家庭・地域が互いに協力し合いながら、児童の健やかな成長を支える体制づくりを進めていきます。そのために、双方向のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を基盤とした教育活動の充実を目指していきます。
<p><b>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</b>  天台の子は素直でほっとする。地域性なのか、穏やかで優しい子が多い。プラザでも靴をきれいに並べるなど、落ち着いている。6年生を送る会も、6年生への感謝の気持ちが伝わるともあたたかい会だった。卒業式に5年生が参加できるようになり、縦のつながりがあり、1年後の自分の姿が見えるようになりよい。1年生の1年間、6年生の6年間、小学校は一番成長が見られる。  学校だよりには目を通してあるので、新しい取り組みなど学校の様子が分かる。学校では、子どものために様々な取組をしている。サポートルームもでき、個に応じた支援をしている。先生が子どもと一緒に遊ぶ姿が多く見られ、先生たちが頑張っているのが分かる。地域も見ていてくれるので、大きな問題はなく、学校運営ができています。</p>		